

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ウィズブック保育園 荏原
所在地	品川区荏原6-12-15

1 活動のテーマ

表現・ことば/異文化

＜テーマの設定理由＞

- ・日々の保育のなかで、様々な形で表現する場面がある。そのなかで、自由に表現することの楽しさを知ったり、様々な表現方法に興味を持ち、楽しさを感じたり、友だち同士を認め合えるようになったり、表現を通して子ども達の感性が豊かになってもらいたいと考えた。
- ・保育のなかで英語にふれる機会があるため、他国の表現方法に興味をもてるように、活動のなかで他国の文化をより深く知って欲しいという思いがあった。

2 活動スケジュール

- ・4月～各クラスの保育者同士で集まり、どのような流れで進めていくのかを話し合う。また、各クラスで子ども達がどのようなことに興味を持ち、どのような表現を楽しんでいるのかを各クラスで活動を通して観察をしていく。
- ・7月＝クラス毎に自由に表現し、披露し合う。
- ・9月＝披露し合う会の名前を決め、看板を作る。（「きらきら★えばらステージ」に決定）
- ・10月＝ハロウィンにちなんだ表現をし、見せ合う。
- ・11月＝運動会のクラスの演目を表現し合う。
- ・1月＝発表会のクラスの演目を表現し合う。
- ・異文化探究（7月、11月、1月）
- ・クラス毎ではなく、異年齢のグループを作る。グループ毎に集まる機会を複数回作り、それぞれがどのような表現を見せ合うのかを話し合ったり、準備をしたり、取り組みを試みたりし、グループ毎に表現をし合い、感想を伝え合った。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

【準備した素材や道具】

パソコン、スピーカー、携帯電話、ピアノ、プロジェクター、スクリーン
各クラス表現するための衣装や楽器、絵の具や画用紙等の画材

【環境の設定】

- ・制作をする際には、子ども達や自分の使いたい素材や道具を選べるように準備
- ・表現を披露し合う際には、子ども達同士のかかわりが広がるように保育者同士で話し合いを重ね、どのような順番で発表をし合うのか、座る位置はどうするのかを確認しながら行ない、振り返りをし、次につなげていった。

4 探究活動の実践

＜活動の内容＞

- ・異文化探究を進めていくと、そのなかで世界のダンスや楽器、服の映像を見て興味をもち、リズムや動きを真似してみようとする姿が見られた。いつも踊っているダンスや楽器とはまた違うことを知るだけでなく、日々の保育のなかでより興味が膨らみ、友だち同士で見せ合って認め合うことが増えた。それだけでなく、運動会や発表会で保護者にも披露しようと子ども達なりに工夫をし、披露した後は達成感に満ち溢れた表情をしていた。
- ・他国の服を教えてもらおうと、表現するときには自分の衣装を作りたいと子ども達から声が上がりと、様々な素材を使って作とうと試みていた。子ども達自身が試行錯誤をし、自分なりの衣装を身につけて表現をしていた。
- ・各クラスでの活動から、後半は異年齢でグループを作り、グループのなかでどのような表現をしたいかを話し合い、みんなで一つの表現を完成させ、グループごとに表現をして拍手をしたり言葉をかけたりと認め合う姿があった。
- ・保護者へはドキュメンテーションの写真を通して活動している内容を共有し、子ども達との会話のきっかけを作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

※活動の様子が分かる写真を2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用してください。)



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 様々な表現方法を子ども達と探究していくなかで「やってみたい」という気持ちの芽生えだけでなく、友だちと協同をしていくことや相手を意識する力を育むこと、また達成感や自己肯定感を高めることができた活動となったと感じた。
- ・ 表現をするということだけでなく、相手の表現を見る機会をすることによって、互いの頑張りを認め合う経験や友だちへの思いやりの気持ち、尊重する気持ちの育ちにもつながっていることに保育者自身も気づくことができた。
- ・ 活動を通して、子どもたちが主体的に表現する機会や、努力した過程を認めてもらう経験の大切さを再認識した。今後も様々な表現活動を取り入れながら、一人ひとりが自信を持って自分らしさを発揮できる環境を整え、友達と協力する楽しさや達成感を味わえる機会を大切にしていきたい。